

MSFの初参加者が語ります！ はじめての現場、 悔しさと喜びと

Interview ①

うらべゆうこ
浦部優子
(小児科医)

派遣先の病院で唯一の小児科医として子どもたちの治療を担当

ワクチン接種が普及していないため百日咳やはしかにかかる子どもたちも多かった。信頼を寄せてくれた患者さんと



Interview ②

おおにしもとひろ
大西基弘
(ロジスティシャン)

医療を支える水、電気、物資、車両などの手配から安全の管理までを担当

36人の現地スタッフをまとめ、日々、水や電気のトラブルの解決に努め、医療チームをサポートした

「誰かの役に立ちたい」。その思いではじめての現場へ！

国境なき医師団 (MSF) の事務局には日頃、皆さまから、「MSFを目指す人って、いったいどんな人たちなの？」というご質問が数多く届きます。そこで新生活が始まるこの季節、MSFで「はじめての現場」へと一歩踏み出したス

タッフたちにインタビュー。初派遣とはいえ、プロのスキル、即戦力を求められるMSFの現場での挑戦を、特集にまとめました。

登場するのは、紛争が続くイエメンに派遣され、小児科医として救急対応や病棟運営に臨んだ浦部

優子。そして、アフリカ・ウガンダでロジスティシャンとして緊急の難民援助に携わった、元自衛隊員の大西基弘です。二人はなぜMSFに志願したのか？ 現地で感じた悔しさ、喜びとは？ 次ページからぜひご覧ください。

困難を抱える子どもたちの力に。 寄付から始め、経験を積み現地へ

浦部優子

(小児科医)



MSFへの道のり

- 海外で暮らした小学生時代に避難民の友達と出会い、人道援助に関心を持つ。
- 2015年～ 病院を辞め、フリーランスの小児科医としてへき地や離島で働く。
- 2021年10月～ 2022年6月 MSF初参加

困難な環境で暮らす子どもたちの力になりたいという思いで、母と同じ小児科医になりました。母はMSFの寄付者で、派遣を希望していた時期もあり、私自身も自然とMSFに寄付をするように。へき地や離

島での勤務、災害医療も経験した後、派遣登録しました。

初派遣先はイエメン北部のハイダン。2015年に爆撃を受け、復興途上にある病院でした。首都から車で7～8時間かかるへき地で、山奥から歩いて来る患者さんもいました。

小児科医は私一人。24時間、救急対応を意識しながら、集中治療室（ICU）を作り、重症患者の受け入れを増やすなど、病棟の拡大や現地スタッフの教育を担いました。限られた医療設備の中、へき地勤務で培った基本的な問診や

診療のスキルが役立ちました。

命を諦める判断と向き合っ

精神的にきつかったのは重症例と死亡が続いた時。紛争の影響で食糧難が続き栄養状態が悪い、断食月の時は家から出たがらず病院に来るのが遅れるなどの理由から、助かる命も助からないのが日常で、時には蘇生措置を止めて命を諦める判断も必要でした。そんな判断を何例か続けた時は、すさまじい無力感に襲われました。

同様の経験がある医師に相談して気持ちを立て直していく中で「目の前の一人一人の命を救うしかない」と思い至り、長丁場の任務を完遂しました。寄付者の立場では、薬やミルク、病棟建設などが寄付に支えられていると実感できたのも大きな収穫でした。

【忘れられないシーン】

重症の百日咳の発作で
運び込まれ眠り続けた
ノーラちゃん

ICUでの治療が実を結び、生還！

ベッド2床と機器を備えたICUを作り、最初に迎えた重症患者は生後1カ月の女の子ノーラちゃん。重い百日咳でけいれん発作が続き意識がない状態でした。5～6日眠り続けましたが、スタッフ全員でできることは何でもやろう！と治療と栄養維持に努めたところ、目覚めてくれて……。母親はもちろんスタッフも大喜び。小さな命の奇跡的な生還、いまでも忘れられません。

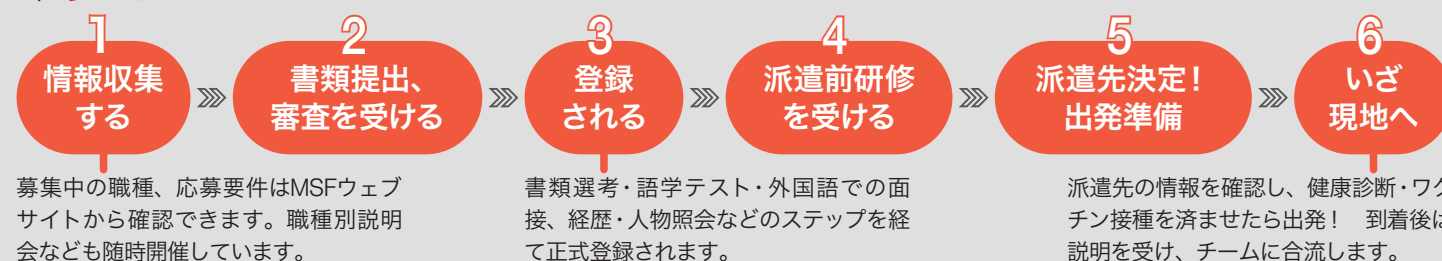


©Chiaki Suzuki

海外派遣スタッフになるには？ 皆さまからのご質問に答えます！

増え続ける人道危機に対応するため、MSFは常に人材を募集しています。参加への道のりをご紹介します。

Q. 参加するには？



自衛隊パイロットからMSFへ転身。 「不可能はない」の精神で支援を

大西基弘

(ロジスティシャン)



MSFへの道のり

- 2013年 海上保安大学校卒業。在学中に東日本大震災の災害ボランティアを経験。
- 2014～2021年 航空自衛隊で国内外の災害派遣などに従事。
- 2022年1月～7月 MSF初参加

昨年、ウガンダでロジスティシャン*として活動しました。前職は航空自衛隊の輸送機のパイロット。東日本大震災で外国籍の方々が活動する姿を見て、自分も国際的な人道援助の道を目指したいと思ったからです。国内外の被災地で活動する中で、困難を抱える人により近い場所で支援を届けたいと考え、MSFに応募しました。

現地では、スタッフをマネジメントしつつ、隣国のコンゴ民主共和国から避難民が大勢逃れてきた緊急時には、前職の経験を生かしキャンプの立ち上げも行いました。

自衛隊との違いに戸惑いも

派遣当初、前任者からの引き継ぎを受けられない事情があり、医療専門用語に慣れるのに少し時間がかかりました。典型的な日本人

※ 物資や車両、機材の調達・管理、施設の維持管理を担当。



©Chiaki Suzuki

タイプなので、最初は会議の場で発言を躊躇してしまったことも。

指令が隔々まで届きやすい自衛隊とは異なり、国籍や宗教が異なるメンバー一人一人と意思疎通し、プロジェクトを動かすのは至難の業でした。けれど、場数を踏む中で、相手を尊重しつつも自分の意思をしっかりと伝える交渉や調整がMSFでは大切なんだと実感していきました。

私たちには医療チームなどから多くの依頼が届きますが、どんなに難しい内容でも「Everything is Possible（全てかなえるよ）」

【忘れられないシーン】

難民の方に
直接言われた
「ありがとう」
力になった幸せを実感

難民キャンプで生活物資を求めて列を成す何千、何万という人びとに、毛布や水などを届けた時のこと。着のみ着のまま逃げてきたであろう小柄な女性が私のほうに近づいてきて、「Thank you」と。その一言を伝えるためにそばに来てくださった。医療・非医療の多くのスタッフの頑張りで、こうした人びとの命を繋ぐMSFの活動。何て幸せな仕事なんだろう！と思えた瞬間でした。

と言い、実際に解決していくボスがいて感銘を受けました。現場であらゆる要請に応えられるのも、皆さまの継続的なご支援があるからこそ。応援を力に、「不可能はない」の精神で活動を続けたいです。

非医療スタッフの仕事って？
5人のインタビューを公開中！

スマートフォンから



海外派遣スタッフを
通年で募集中。
詳細はこちら！

www.msf.or.jp/work/expat/



スマートフォンから

Q. 2022年には何人が はじめて参加したの？

13人

(日本から)

活動規模の大きいイエメンや南スーダンへ多く派遣されました。

2023年の「初参加者」への 応援メッセージを大募集！

今年、はじめての現場に向かうメンバーに、応援メッセージを送りませんか？ 右の二次元コードからぜひご記入ください。皆さまから託された思いを力に、頑張ってください！



スマートフォンから

行きます！



初参加予定
金子光延
(小児科医)
4月～ タンザニアで活動

私がMSFを応援する理由

国境なき医師団(MSF)をご支援くださる日本の寄付者様は、何と約40万人。
 お一人お一人、応援してくださる理由はさまざまですが、そのどれもが活動の原動力になっています。
 このコーナーでは、皆さまが私たちに託してくださる思いをご紹介します。



助産師として参加するのが目標 それまでは寄付で応援

—— 大石佳澄様(北海道) ——

子どもの頃から、紛争や災害によって苦しむ人の力になりたいという思いがあり、助産師の道に進みました。子育てが落ち着いたら、MSFの活動に参加するのが目標。『ACT!』に

載っているスタッフの方々の、参加に至るまでの悩みや派遣先でのジレンマなど、自分を重ねながら読んでいます。参加できるまでは、寄付で協力を続けます。

素早い活動、どんな場所にも入り込む力強さに共感

—— 本多健二様(東京都) ——

昔からさまざまな団体に寄付をしていましたが、本当に必要とされている場所や人に支援が届いているか疑問でした。そんなときにMSFを知り、活動の素早さやどんな場所にも

入り込む力強さに共感。機会ごとの寄付も時には行いますが、緊急の活動を支えるには少額でもいいので継続的な支援がより大事だと思い、「毎月寄付」で応援を続けています。

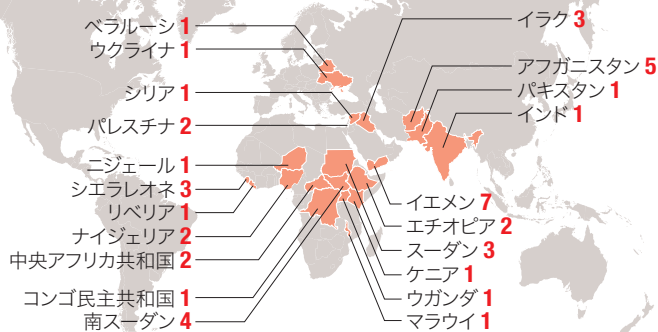


Facebook、Instagramでもご紹介中！

皆さまの「私がMSFを応援する理由」を、不定期でご紹介しています。
 支援の輪を広げるため、ぜひ、いいね！やシェアをお願いします！



日本からのスタッフ派遣状況 21の国と地域44人(2023年2月1日現在)



MSF連絡帳

今年も参加予定！

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア

アジア最大級の国際短編映画祭で、世界のいまを映すショートフィルムを観られる本フェスティバルで、MSFは今年も連携イベントを開催します。詳細はウェブサイトやSNSでお知らせします。ぜひチェックしてください。

www.msf.or.jp/event/

スマートフォンから



住所変更は便利なマイページで！

春は転居シーズンですね。お引っ越しをされましたら、ぜひウェブサイトの「マイページ」から、住所変更のお手続きをお願いします。本ページ下部の二次元コードからアクセスいただけます。

ニュース
 レター **ACT!** 2023年
 4月号

発行元 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・登録情報に関するお問い合わせ

TEL **0120-999-199** 通話料無料

平日9:00～18:00 / 土日祝日、年末年始休業

※ご住所など、登録の情報についての変更や、「毎月寄付」の変更は上記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。



※2023年2月上旬の情報を基にしています。

最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。

マイページ参照は
 スマートフォンから

遺贈に関するご相談・お問い合わせ

TEL **03-5286-6430** 担当者直通

平日10:00～17:00 / 担当：荻野、今尾

国境なき医師団ウェブサイト www.msf.or.jp

